

2024-2-1 IIFES 向殿安全賞記念講演 東京ビッグサイト

ポジティブ安全学という概念

向殿政男

(一社) セーフティグローバル推進機構 (IGSAP)
会長

明治大学 顧問 名誉教授
(公財) 鉄道総合研究所 会長

安全は、本来、ポジティブな概念 を含んでいた ～リスク低減と心の自由～

* 安全とは

「許容不可能なリスクがないこと」

(JIS Z 8051 安全側面—規格への導入指針)

(ネガティブ領域での発想)

* 安全とは

許容することが出来ないリスクからの解放

Freedom from risk which is not tolerable

(ISO/IECガイド51)

(ポジティブ領域での発想)

* 安全には、

ネガティブな面：リスクを許容可能なレベルに低減する

ポジティブな面：解放されて自由に活動する

ネガティブな面とポジティブな面の両面が含まれている

働く人の安全の真の目的は？

～我々は何のために安全をやっているのか～

- 『安全』な環境に囲まれて、
- 『健康』で、
- 『やりがいをもって』

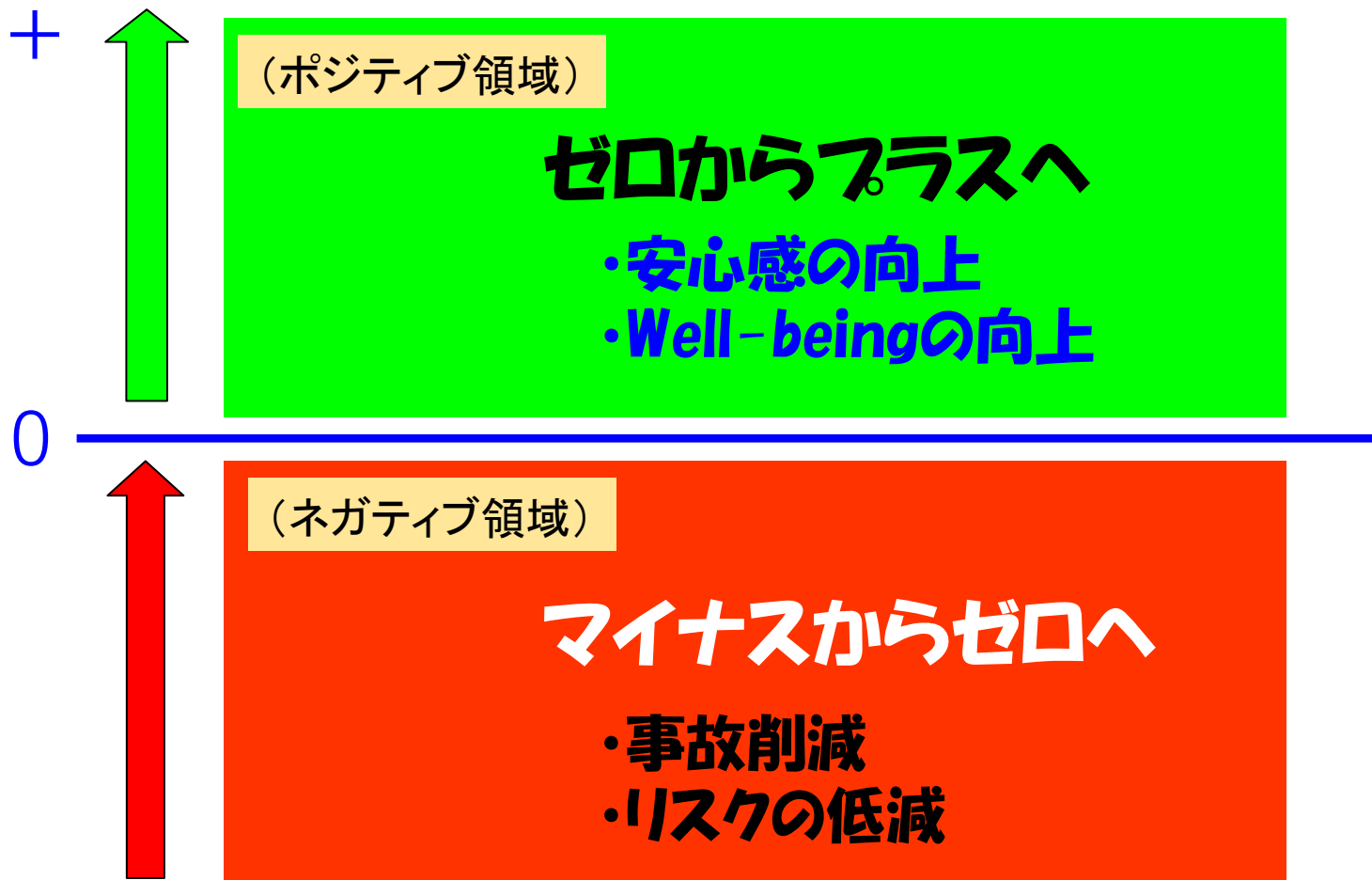
働くこと

⇒ 目指すべき新しい労働安全衛生の価値観

⇒ 目指すべき新しい社会の価値観

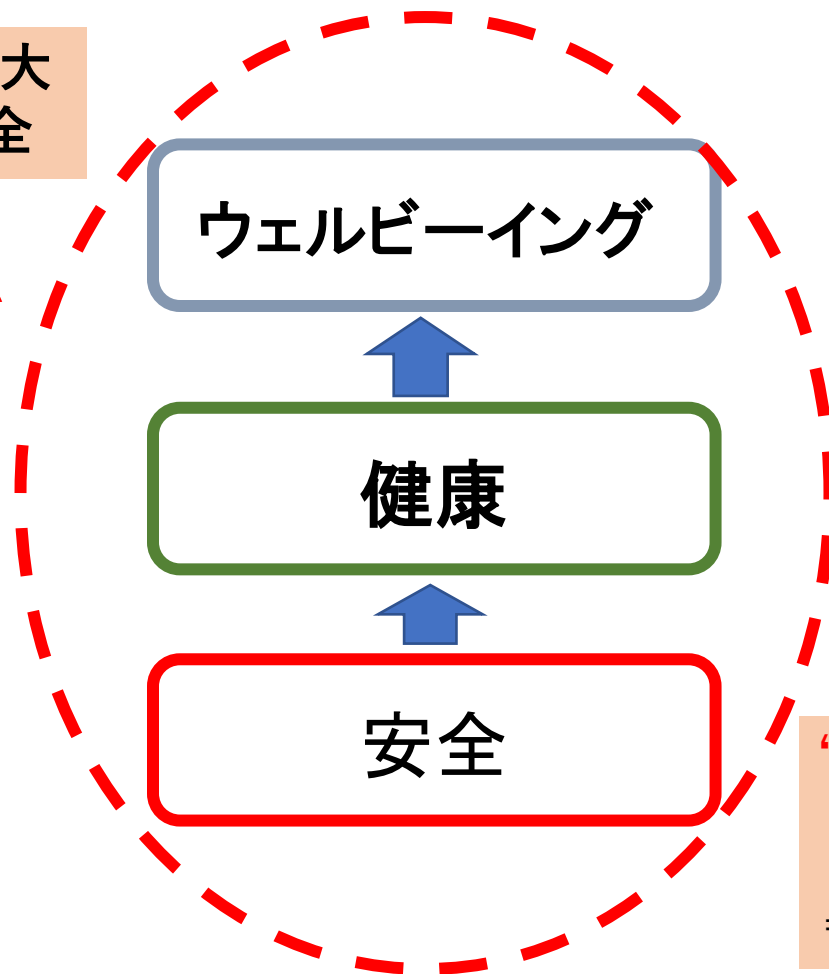
『安全』で、『健康』で、『幸せ』に生活すること

ゼロからプラスへ



安全・健康 として ウェルビーイングへ

安全概念の拡大
⇒ 広義の安全



* 身体、精神、心まで
配慮する

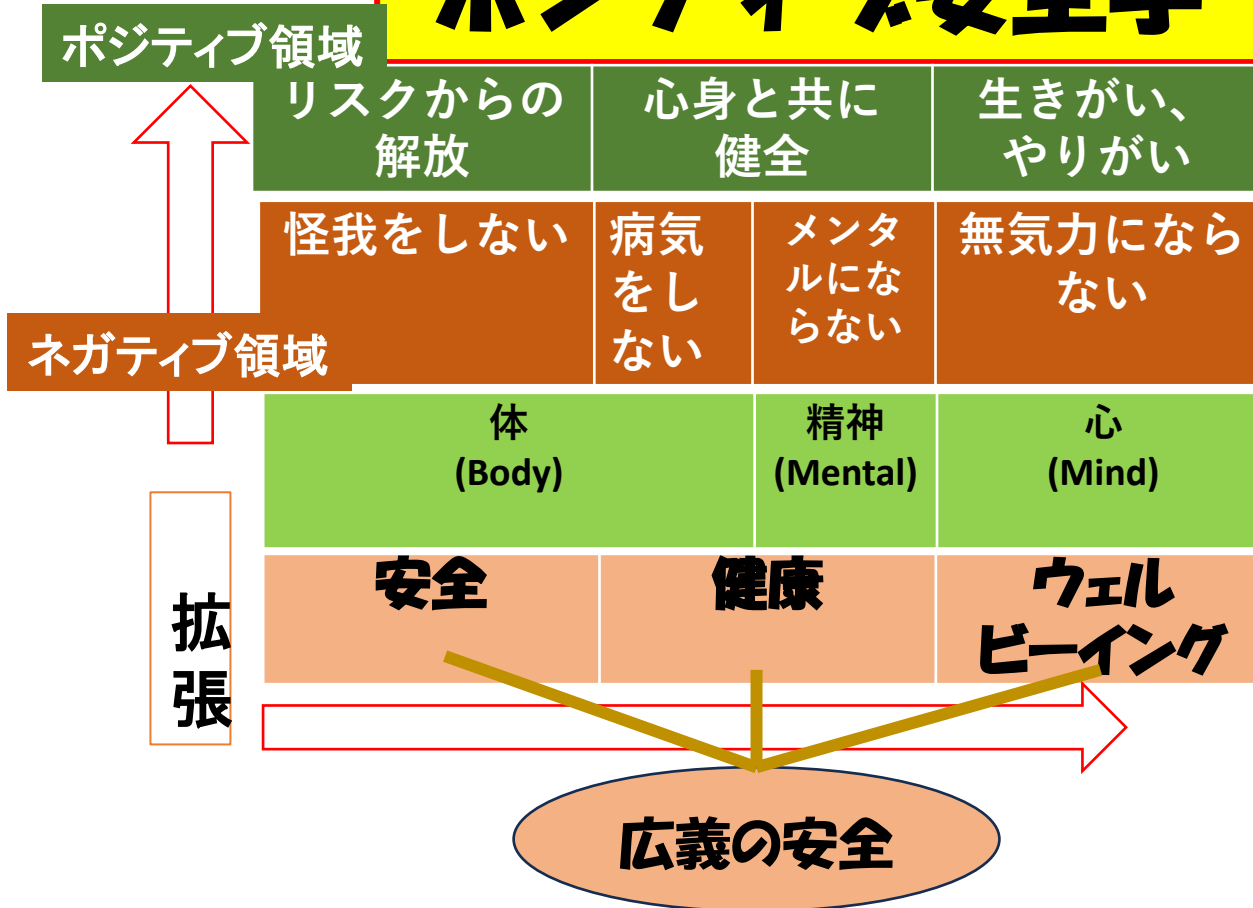
Vision Zero
の目標

“『安全』な環境に囲まれて、
『健康』で、『幸せ』に”
働ける職場
⇒ 目指すべき新しい価値観

ゼロからプラスへ そして 安全、健康、ウェルビーイングへ

	マイナスからゼロへ (結果指標)	ゼロからプラスへ (前向き指標)
安全 (safety)	仕事の原因による 身体的な傷害がない	リスクからの解放 リスクを受け入れ、ベネフィット を求めて自由に行動できる “安心して”
健康 (Health)	仕事の原因による 身体的な病気、疾 病がない	心身共に健全 ②身体的にも、精神的にも、 社会的にも、良好な状態(WHO) “元気で”
ウェル ビーイング (Well-being)	①仕事の原因によ る精神的な障害 がない(メンタル 等)	③やりがい、生きがい、幸福 ⇒安心 “意欲的に”

ポジティブ安全学



	ネガティブ的な要素 (従来の考え方)	ポジティブ的な要素 (新しい考え方)
ビジョン・ゼロ	結果指標：過去の事故の数、死者数を数える	先行指標：良いところ、旨く行っているところを評価する
労働安全衛生 (ポジティブ安全学)	怪我をしない、精神障害にならない	元気にやりがい、生きがいをもって
Safety I, Safety II	危険源、悪い点を探して潰す	良いところ、うまく行っているところを探して伸ばす
心理学 (ポジティブ心理学)	精神的障害や人間の弱さを通常の状態に戻す	通常の状態から幸せな状態にする



安全の価値観を変える

- 安全が当たり前で、安全はタダだと考えがちだった
- 失敗するから、ちゃんとやらないからと他を非難する
- 危ないから、事故が起きたらどうするんだといってやめる/やめさせる
- これまでの安全は、**ネガティブの領域**での活動であり、マイナスを無くしてゼロに向かう活動が主だった
- これからの安全は、これまでの活動に加えて**ポジティブの領域**でゼロをプラスに向かう活動が加わる
- リスクを受け入れて積極的に、前向きに生きることに関わり付く
- **人々は、安全に価値を見出し、経営トップは安全に掛ける金はコスト意識から投資へ**
- **皆の意識変革**を促すようになる
- ウェルビーイングを評価するPLI (Proactive Leading Indicators : 前向き先行指標)が必要



向殿 政男

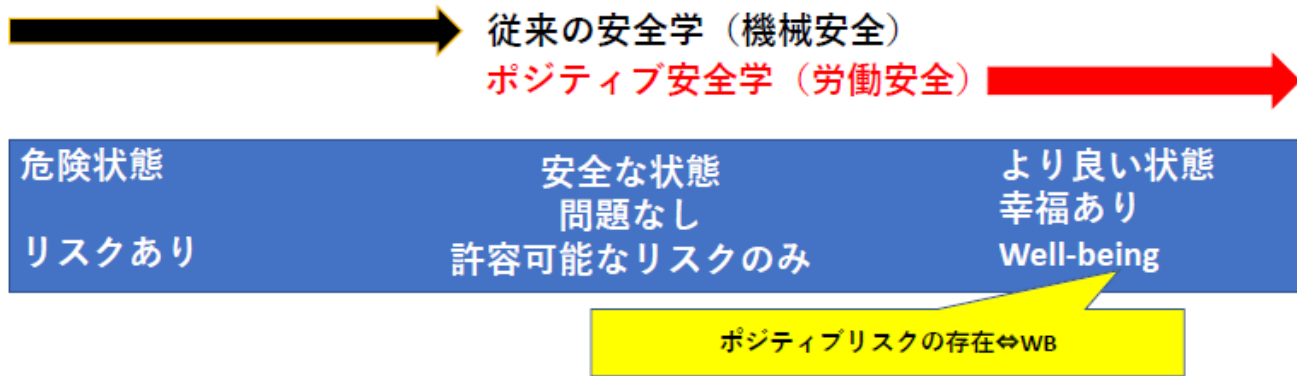
公財 鉄道総合技術研究所 所長
明治大学 顧問 名誉教授

ポジティブ安全学 (2018年提唱)

「安全学は、ネガティブなリスクと同様、ポジティブリスクも研究するべきである」

「安定な状態の人を幸せな状態にすること」

今までの安全学 → 労働災害やヒューマン・エラーに焦点 → 問題解決
「危険な状態が安全になったところで、幸せに生きられる訳ではない」



北條理恵子氏提供

まとめ

～安全は、社会を明るくする仕事～

安全思想の流れ

～技術の観点から～

- **機械安全**（欧州主導）・・・**構造による安全**
（確定論的安全）

⇒

- **機能安全**（米国主導）・・・（機械安全＋）**コンピュータ・情報による安全**（確率論的安全）

⇒

- **協調安全**（アジア主導？）・・・（機械安全＋機能安全＋）**人間による人間性重視の安全**（安心、ウェルビーイングの重視）

協調安全とは

安全学

安全に関して、各分野の安全に共通する部分を、理念の下で**自然科学（技術）、人文科学（人間）、社会科学（組織・環境）**の側面から、統一的に、総合的に、体系的に考察する安全の学問体系

協調安全（理念）

モノと人間と環境とが協調して実現される安全

Safety2.0（手段）

IoT、AI、ビッグデータ、センサー、画像処理等の**ICTを安全機能の発揮**に活用する技術。

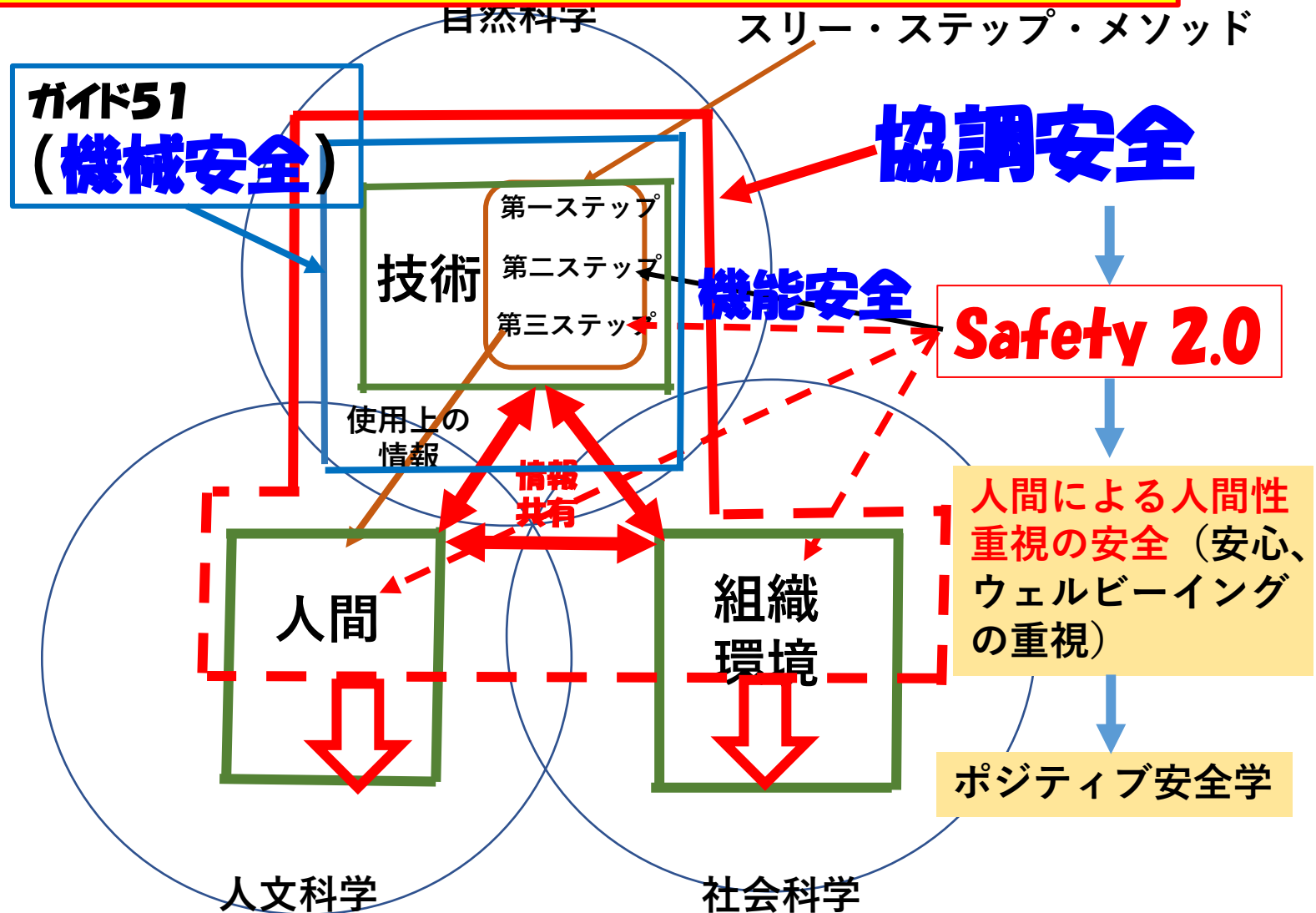
労働安全衛生（目的）

“『安全』な環境に囲まれて、
『健康』で、『幸せ』に”働くこと”

* ここで、環境には、物理的環境と共に、
法律・組織・習慣等の社会的環境も含む

安全は、調和と協調を目指す

～協調安全の技術的なアプローチ：Safety2.0～



社会のウェルビーイングの基礎は ポジティブ安全から

- **目標:** 人々が、自らの身の**安全**を確保し、その上で**健康**を維持し、更に、**遣い甲斐、生きがい**をもって、生活し、仕事に取り組むような社会（**社会のウェルビーイング**）
- そのための基本は**安全**
 - ①安全な製品を通じて**人々**の安全・安心の確保(**製品安全**)
 - ②企業で**働く人の安全の確保**(**労働安全**)から始まる
→**ポジティブ安全**
- 製品安全や労働安全を通じて、人々のウェルビーイングの実現を目指す活動が、**企業のウェルビーイング**
- 企業のウェルビーイング*
活動が**企業価値を向上**させ、**社会のウェルビーイングの実現**に貢献する
- **安全は、社会を明るくする仕事です。**

ご清聴ありがとうございました



参考文献

- ・ 入門テキスト安全学、東洋経済新報社、2016
- ・ 安全四学ー安全・安心・ウェルビーイングな社会の実現に向けて、日本規格協会、2021
- ・ **知っておきたい！安全衛生の世界的動向～働く人の安全、健康、ウェルビーイング～**、中央労働災害防止協会、2022
- ・ 安全、健康、ウェルビーイング、セーフティダイジェスト、Vo.68、No.11、
(公社) 日本保安用品協会、2022-11
- ・ **ポジティブ安全に向けて**、セーフティダイジェスト、Vol.69, No.11、
(公社) 日本保安用品協会、2023-11